

平成28年度第1回稲沢市総合教育会議 会議録

1. 日 時 平成28年8月25日（木）午後2時～3時25分

2. 場 所 稲沢市役所 1階 大会議室

3. 出席者

市 長 大野 紀明

教 育 長 恒川 武久

教 育 委 員 青 井 博 藤 田 美知子

中 畠 克 佳 野 村 春 子

教 育 部 長 遠藤 秀樹 教育部調整監 服部 清久

部次長兼庶務課長 岩田 勝宏 庶務課主幹 長谷川 隆

学校教育課長兼指導主事 武田 孝薫 学校教育課統括主幹兼指導主事 服部 高志

生涯学習課長 内藤 幸蔵 スポーツ課長 杉山 順三

図 書 館 長 加藤 定雄 美 術 館 長 山田 美佐子

書記 庶務課 西村 純

4. 傍聴人の数 9人

5. 協議・調整事項

(1) 子どもたちに身につけさせたい確かな学力について

(2) いじめ・不登校の現状について

(3) その他

6. その他連絡事項

－ 開 会 －

●教育部長

それでは、平成28年度第1回稲沢市総合教育会議を開会します。はじめに、大野市長からごあいさつをいただきます。

(市長あいさつの後)

●教育部長

本会議は、設置要綱第5条において市長が議長となっておりますので、以下の取り回しについては、大野市長にお願いいたします。

◎市長

それでは、2. 協議・調整事項に入ります。「(1) 子どもたちに身につけさせたい確かな学力について」、事務局より説明をお願いいたします。

●学校教育課長

(別添の資料により説明)

◎市長

ただいま事務局から説明がありました。御意見・御質問はございませんか。

○委員

本年度までの小学校の多様な学習活動支援事業の実践校は、23校中11校ということでしたが、いつまでには全校23校になるのかという見通し等がありましたら教えてください。

●学校教育課長

今のところ小学校11校で実施をしており、できるだけ早く全小学校に実施をということで拡大をしていきたいと考えております。それに向けて現時点では、徐々に拡大を進めていくという形で平成31年度には拡大はできないかと、財政面も含めて他課と協議を進めてまいりたいと考えております。

○委員

今のお話に関連しますが、「課題」のところには具体的に何をするのが書かれていないのですが、平成31年度までに全校実施対象にするにあたっての当面の課題はどこにあるのか、それを難しくさせている、妨げている要因はどこにあるのか教えていただきたいと思っております。

●学校教育課長

この多様な学習活動支援事業につきましては、各学校が独自に取り組んでおります。6時間目に行う低学年の児童への取り組みをこちらに書いておりますが、それぞれがマンネリ化しないように新たな教材や活動内容を常に工夫していく必要があります。そのため、実施校の連絡会を年に一回やっております。新規の学校と、それぞれの実施校とで情報交換を行って新たな取り組み、いい取り組みを取り入れられるようにしております。ただ、学校規模が様々に違います。小さな学校もあれば大きな学校もありますので、それぞれの学校の実状に応じた形で実施ができるようにと考えております。その中で有効に活用させていただいておりますのが、大学との連携ということで、大学生の活動の一環として学校に出向いていただき、多様な学習の時間に体験的な活動を取り入れ

て支援をしていただいている、というものもございます。プログラムを今後どのようによりよいものにしていくかが一つの課題でございます。

他に、非常勤講師を現在配置させていただいていますが、レベルの高い非常勤講師の確保をとということで、こちらについては学校教育課で面接をしながら講師の確保に努めているところでございますが、やはり学校現場で有能な講師の確保を今後も進めてまいりたいと思っております。

○委員

私は働く母親として、仕事の時間と子どもの学校の時間がずれますので、その間の解決法として昔はお稽古を一週間すべて詰めていました。私がやってきたことが、現在のこういう形、プラスワンになっていると思いました。少し気になるのは、授業ではなく皆で遊んでお稽古してやるというのは結構身につくので、担当してくださる先生の専門性が高いほど伸びます。専門性の高い方を採用するよう努力して下さっているんですけども、これはしっかりやっていただきたいと思えます。後になっていろいろなところに出てきて、それは指導者によっていい悪いが出てきますので、指導者というのは大変大事なことだと思いますのでよろしく願います。

○委員

このような取組みしていただけることは、働くお母さんにとっても、それから最近よく言われているのが、家庭によって貧富の差があるようなことをお聞きしています。そういった中で塾に通える子と通えない子の差が出てくるのではないかと思います。学校で皆と一緒にある程度の授業や遊び、学びをしていただくというのはとてもいいことではないかなと思います。

話は少し違いますが、確かな学力ということで、生きる力、豊かな心、健やかな体ということなんですが、この基礎になるのは、学校で私は特に国語が大事ではないかと思います。しっかり話を聞く、しっかり話ができることをまずできたら、自分の意見を言うことができるし、考えることもできると思えます。健やかな体というところでも、体育の授業もしっかりやって皆と一緒に遊び、遊びの中から体力をつけていくことが、小学生の低学年のうちにやるのが大事ではないかなと思います。そういったことが、生きる力、そして確かな学力につながっていくのではないかと思います。そういったところも持ち帰っていただけるといいかと思います。

○教育長

確かな学力の定着ということで話題になっておりますが、その中で特に学校教育において、本当に一所懸命というか全力を尽くして授業、教育をしており

ます。しかし、そういう学力も含めて、子どもの教育をしていくうえで、学校だけでなく家庭の協力を得ないことには成就しないと思っております。勉強を家庭でみるのではなくて、学習習慣も含めて、学校での学びをチェックできる、そんな家庭の協力を得たいというのが一点と、もう一つ、先程貧困という話が出ましたけれども、実際問題、学校教育においては貧困とか豊かな家庭とか、そういうことでなくすべての子どもたちにきちんとした学力を身につけさせてやりたいということで力を尽くしているところでもありますので、ぜひ今の多様な学習活動支援事業を含めて、少しでも補充、進化できるような学習の時間を持っていただくような形で、学校においてもやっていかななくてはと認識しております。

家庭の協力はなかなか難しいところではありますが、子育ては学校だけではない、家庭の協力、さらには地域の協力もありますが、まず学校と家庭が連携していく必要があると強く感じております。

◎市長

いろいろご意見いただきましたけど、一点目についてはこの程度で打ち切って次に移りたいと思います。それでは次の議題の「(2) いじめ・不登校の現状について」、事務局より説明をお願いします。

●学校教育課長

(別添の資料により説明)

◎市長

ただいま事務局から説明がありました。これは、古くて新しいもので、今後引き続いて存在するであろう事案であります。人と人がいたらこういう形になる。そのことをどうやっていくのかということについて、知識、経験豊富な方々でありますので、このいじめ・不登校の現状について各委員さんから御意見等がございましたらお願いいたします。

○委員

明日花の事業についてですが、先程の説明の中で中学校ではかなり活用があって全部で30人前後とか、現在小学校は0人なんですか。

●学校教育課長

現在小学生は入級はしておりません。ただ、不登校の児童がいた場合に、学校からはこういうところがありますよ、そこで支援していただいておりますよという紹介はさせていただいております。毎年数名ではありますが、小学生においても明日花を見学に行ったり、仮入級をしたりという話があるのですが、実際に小学生の場合は保護者の送り迎えがどうしても必要になってきます。ま

た、小学生が1人で行ってもほとんどが中学生ということでなかなか入りづらいということもあるのではないかなと思います。見学に行かれても継続的に明日花に通級をするということは、これまでのところほとんどなかったと認識しております。小学生についてもいい形でできるといいのかなと思うところです。

○委員

中学生では効果が上がっていると思います。23校中昨年度35名の不登校の児童がいるということで、小学校でも児童が行きやすいような環境作りを、お金がかかるので何とも言えませんが、例えば希望があればタクシーで送迎しますくらいまで言うと、保護者の方もお仕事の関係から離れて検討しやすいんじゃないかなと思います。なんとか小学校でもいろいろできたらと期待をしております。

○委員

私は保護者の立場で2人子どもがいます。1人は中学生で、下の子は小学生です。過去を振り返るにあたって、親としてやらないといけないこと、子どもに対する接し方、そして学校との係わり方というのを非常に勉強させていただいたということがありました。そのときに、親としてこの子に何ができるかなと真剣に考えさせてもらいました。学校とも相談して、教頭先生、校長先生とも話をさせていただき、私らの要望を聞いていただいたうえでクラス編成に配慮していただいたということも実はありました。その甲斐もあって、元気よく学校に登校することができて安堵した経験があります。大事だなと思ったのは親の認識度、子どもがどんな状況に置かれているのかということのをいかに親がきちっと把握できるか、子どもに対して親がこういったことをやっているという姿を見せること、そういった姿勢というのが私は非常に大事であるなと思います。

先程も教育長からも言われましたが、親の認識、教育、知識、こういった具合にも随分と左右されると思うのですが、そこを親の責任だからということで決めつけるわけではなく学校とも連携をして、学校側もアドバイスのことを言っただけであれば、これからのいじめ・不登校の問題については徐々に減少していくのではないかなと思います。

○委員

不登校が全国的に増えているということなんですけども、不登校といじめっていうのはやはり関連があるのではないかなと思います。稲沢市でも、増えている原因としていろいろ把握はしていると思うんですけど、原因を調べる、そしてそこから解決をしていくということがとても大事なことだと思います。不

登校にしてもいじめにしても、解決をしている事案がいくつかある中で、スクールカウンセラーの配置はとても活用されて効果があるのではないかと思います。中学校についてはすべての中学校にスクールカウンセラーが配置されて、小学校については6校なんですけど、こういったスクールカウンセラーの方たちの御意見や、学校と保護者との連携が大事ではないかと思います。不登校やいじめが増えていることに対して原因は把握しているのでしょうか。

●学校教育課長

不登校につきましては、様々な家庭環境や友達関係、友達とのコミュニケーションを図りづらいなど個々により原因、要因が異なりますのでなかなか難しいところもあるかと思いますが、学校としましては、子どもたち一人一人を見ながら、そして先程からお話をいただいておりますが家庭と連携をとりながら情報をいただきたき進んでいきたいと思っております。不登校が現れる一つの要因かもしれませんが、積み積みもったものが出てきて、なかなか解決するのに時間がかかることがあったりというようなこともあると思っております。

いじめにつきましても、一概にこれが原因というのではなく個々の事例によって異なってまいります。中学生くらいになりますとメールやラインで返事がこなかった、既読にしなかったからというところから始まるようなこともございますし、一緒に遊ぼうと言って今日は都合が悪いから、じゃあもう一緒に遊ばないということや、原因としてこういうことがあるからいじめが起きるといのは一概には言えないところがあります。こちらにつきましても、子ども一人一人をしっかりと見て、地域、保護者の皆さま方との連携を図りながら情報を得て、子どもたちのちょっとした様子の違い、変化を捉えるように各学校で取組みをしていただいているところではあります。

とは言っても、自分の経験から言いましても親に自分がいじめられていることはなかなか言いづらい、親に心配掛けさせたくない、自分が弱いということをおもわれないという思いもあるのではないかと思います。やはり大人が、学校、教師も、保護者、地域の皆さま方も、大人が子どもたちの心の中を感じ取れるようにしていきたいという思いがあります。様々なアンケートをとったり、教育相談を行ったり、学校でしていただいております。また、中学校では生活ノートといって日記的に書いているようなものもございます。そのようなものでいち早く感じ取って対応ができたらと思っております。

○委員

私のところにくるケースは、成績が悪くて、集団の中で自分一人だけが取り残されるという感情をもった子もいました。全体的に、友達の中で自分だけが

違ったことを言うとなんとなく後ろめたいとか、そういうのが重なっていじめや不登校に入っていくケースがよくあるみたいです。集団生活で、全員が一致するのが集団なんですけど、その中で個々がちょっとずれたようなところを改良するような教育が必要じゃないかなと感じておりますが、いかがでしょうか。

●学校教育課長

学校生活も集団生活になってきます。その中で、皆一緒がいいのか、個々がいいのかというのは一長一短はあるかと思いますが、今の教育では個々のよさを認めていく、個々の力、それぞれの学校の中での居場所を作っていくことも大切な部分であります。人と違うからいじめるとか、学校に行きたくないとかということではなくて、その子の持ち味、いいところを伸ばしていくことも学校教育の中では非常に大事なところですよ。みんな違ってみんないいという詩もございます。そういう意識を子どもたちに持たせて一人一人を大切にしていって、認め合っていく活動、教育を稲沢市内の小中学校においても実践をしていきたいと思っております。そうすればいじめ・不登校の減少、解消に向かっていくことができるのではないかと考えております。委員の皆様からの御意見、思いをまた学校に伝え、実践できるように進めてまいりたいと思っております。

○教育長

不登校児童の増加は看過できない状況になっていると捉えております。稲沢市の場合は、中1ギャップという問題はそれほど顕著ではなく、学年が上がるにしたがって特に中学3年生に不登校になる生徒がかなり出てきております。解消に向けてそれぞれの小中学校において不登校生徒の歯止めを掛け、減少にということで力を尽くしていただいておりますが、なかなか数字として挙がってこない現状がございます。いつもいろいろな会でお話させていただいているのは、その不登校の要因がそれぞれ違うということももちろんあるんですが、なんとか要因を探ることによってその子に合った適切な指導は、何かいい事例を見出してくれないかということで、そうすることによって市内全員の生徒児童の中で不登校の減少につながるのではないかと、研修も含めていろいろな場でお話させていただいております。

不登校児童を出さないために何か手立てはないかということで、不登校になる手前、悩みを持ちながらどうも行きにくい、そういう手前の生徒に寄り添って話を聞き、その子の悩みを解消してあげられないかということで、明治中学校を中心に女性のボランティアの方に1名入っていただいております。子どもに寄り添うと同時に、週一でくるカウンセラーの先生とのつながりが難しく、子どもの聞いた声を心の相談という形で呼んでいるのですが、その方を通してカ

ウンセラーとも連携をしております。少しでも早く悩みを解消できる方法はないだろうかということで、ボランティアで試行的にやっただけですが、またその結果をみて、どういう方法がいいのか見極めていきたいと思っております。どちらにしても難しい問題ではありますが、いい方向に進めばと努力しておるところであります。

◎市長

それぞれ自分の体験された話をいただきました。いずれにしても、いじめは人が存在する限りどこまでいってもありますし、一般社会にもあります。若い世代の人は人生経験がないし、それをどうやってカバーしてあげるのかが非常に大切ではないかと私自身思います。したがって親がどのような経験をして、子育てにどういった力を入れたらいいのか、まさしく家庭内での子どものしつけ、育て方だと思っております。

次に、「(3) その他」ですが、自由意見ということで日頃思ってみえますこと何でも構いませんのでご発言をお願いします。

○委員

先日新聞で見たのですが、グローバル化ということで外国から来た人が日本に来て英語が通じないことにびっくりしたという話からです。これから英語教育を進めていく方向にきていますが、英語教育はとても大事だと思いますし、低学年のうちから英語に馴染んでおくことも大事だと思います。ただ、とても学校の先生がお忙しい中で、授業時間もなかなかとることが難しいのに、低学年から英語教育をしていくのもどうなのかなと思います。英語も大事ですけど、本を読む、日本語をしっかり勉強する、話す、聞く、書くという国語力をまず高めることが将来の英語力に生かされるのではないかと思います。塾の先生から、今きちんとした言葉で話すことのできず、それがどういうことにつながるかということ、算数の式の計算はできるけど問題を読んでどういうふうにしたらいかがかわからないということを知りました。やはり、本を読んで、そこから何が書いてあるのか読みとり、それをどうするか考えるという力につながっていくのではないかと思います。もちろん英語教育もこれから進めていかななくてはならないけれど、その前に小学生のうちには国語とか算数とか基礎学力といったものが大事ではないかと思います。先生方は大変お忙しいと聞いております。そんな中でいろいろな要求がどんどん増えてくるとは思いますけど、これからまた頑張っていただけたらと思います。

○委員

今の子どもたちは学力をつけたらそれで十分、いい学校に行けばいいという

風潮がありますが、小さい頃から自分がどういう大人になりたいか、どういう仕事をしたいのか、そういう意志があるとそれをするためにはどういうふうに学んだらいいのか自分で考えて自分でその進路を選択する、そういう意志が育つような教育をしてもらいたいと、自分の子育ての反省からそう思います。

○委員

私は会社経営者なのですが、社会の中において働いてみえる従業員とお客の関係で先行きを踏まえてこれではいけないと思うことがあります。お客が何を求めているのかというときに、先程委員が言われた国語力がどうしても不足しているとみられます。お客の意図しているところを捉えられずに間違っただけで行動してお客に迷惑を掛けることが最近あります。お客がどう変化したのかというと、時代の変化に伴ってスピード対応力や求められる回答の能力のレベルが非常に上がってきております。グローバル化に伴って海外基準が標準になってきたときに、今までの日本のものづくりの仕方が通用しない、回答もグローバルに沿った形で求められているのに対して、今うちで働いてもらっている従業員は非常に一所懸命やってきているんですけど、日本の製造のものづくりの仕方から脱却ができていないかなと思います。そこでやっぱり足りないのは、お客が言っていることの理解力が足りないから、それによって違った行動をとってしまうというのがあるものですから、これからの教育について言ったときに知識を取得していくところに関してはどの時代も変わらないと思うのですが、そこから先どういったことを理解する能力を含めて、正しい考え方という表現でいいのかわからないですが、知識も経験も能力もあるのかかわらず考え方が間違っただけでは正しい方向にはいかない、正しい考え方を醸成できるような教育も今後必要になってくるのではないかと思います。

今後の新しい時代に必要となる資質・能力の育成のところにも何ができるようになるのかと資料に書いてあり、それも大事な内容だと思いますが、何をしなくてはならないかを自ら考えられるようになっていただくような教育になっていくといいなと思います。

○委員

最近読んだ記事の中で、日本PTA全国協議会の昨年度のアンケート結果で、学校と家庭のコミュニケーションはとれていますかという問いに対して、一昨年度の平成26年度には小学生は11.5%、昨年度では10.7%、中学生においては一昨年度で10.2%が8%まで下がってきていると、徐々に家庭、学校の間でのコミュニケーションは遠ざかっているなという保護者の認識があります。このままではよくないということで、国のほうでコミュニティースクール

という仕組みについて全国で指定して、近隣では一宮市が実施しております。ぜひ保護者、学校だけじゃなく地域も含めた展開、学校行事を広めたり地域の行事に学校が参加するとかしていけば、さらに学校と家庭は近くなるんじゃないかなと思います。

○教育長

教育というのは、義務教育の後に社会に出てどう生き抜いていく力を身につけさせていくかということを考えなければならないと思いますけど、先程基礎基本が大事だとか自ら学ぶ力が大事だとか重々承知している中で、コミュニケーションがうまくとれない方がかなり多くいます。能力的には仕事はやれるだろうけれど、人とうまく関われない教職員も中にはみえるくらいです。本来教職員として仕事に就かれた方は、そういうことは皆得意だろうと思う中で、ちょっと苦手な方がみえて児童生徒や職員との関係がうまくできないということを考えていくと、これからもっといろいろな場面で多様な考えに触れたり、活動をしていく中で互いに切磋琢磨する場を世に設けてあげないと、これから生きていくうえで社会の中の一人の人間としてより豊かな生活をするためには難しいのではないかなと危惧しております。コミュニケーション能力の強化にいろいろな形で取り組んでいかなければならないと考えております。

○委員

コミュニケーション作りに何が必要か考えたとき、遊びの中からコミュニケーションは作れるのではないかなと思いました。今の遊びが、スマホとかゲームが中心の遊びに変化してきているという話をよくしますが、そういったところからも社会が変化してきているなど、それは現状もう逃れられないのかなと感じます。ですがそれ以外に遊び、授業、一緒に体育をする、運動をする、体を動かす、鬼ごっこをする、そういったところから言葉が話せるように、ぶつかったらごめんねだとか、見せてもらったらありがとうとか、そういった単純な言葉がなかなか今は出てこないのではないかなと感じます。勉強ももちろん大事だと思います。とんでもないことを言いますが、今お休みになっている土曜日に授業が復活できたらとか夏休みを短縮したらとか、そういったことで少しでも学校の先生の負担が軽くなり、家庭でも安心して学校に行ってもらえる、そんなのはどうかなと思いました。

◎市長

自分自身を中心に物事を考えすぎる、自分がよければ後はどうでもいいのではなくて、自分はこう思うけど相手はどう思うだろうなど、相手の気持ちになってあげることが足りていないと思います。それがややもすると、付き合いが

悪いだとか、大人の世界でもありますよ。そりゃ付き合いが悪いときもある、そこでの家庭の事情、いろんなことがある、それをきちんと踏まえてお付き合いをさせていただかないと、一時の付き合いで駄目と言われたらそりゃ駄目になってしまうとつくづく思っております。

今話を伺いまして、会社でも学校でも同じですが、今の方々というのは、委員も言われましたけれど、指示待ち人間が多い。指示を待っているだけじゃなくて自分から率先して前を向いて仕事をするという気持ちが若干不足しているのではないかともつくづく思います。

もう一つは、語学の話をしていましたけど、英語先行の話は私もいかなものかなと思います。英語を話すのに文法ができて発音もきちんできると先生方は何人みえるかということです。単語は話せるけど発音が全く違って外国人に通用しない、それをどうやって指導してあげたらいいのかという指導者が本当にみえるのか、国はあれやこれやと言うけれども、現場に出たらできるのかと思います。それも大切ですが、やっぱり国語力が重要だと私は思いますし、日本人に生まれた以上、語学力、地理、歴史、これを知って初めて日本人なんです。よそのことばかりやってはいけないうし、学力というのか受験戦争か、この部分でない科目については一切手を触れない、若干触れて後はそのまま。それが、基本的なことが欠けているのではないかと。日本の歴史があって現在があり、地理はカーナビ見ればわかるのではなく、自分がどっち向いて走っているかわからんようでは、日本列島そのものを理解しないと、これは日本人って本当に言えるのかとつくづく最近思うようになりました。

もう一つは基礎学力なんですけど、全体のレベルは必要です。しかしながら、落ちこぼれというのか理解ができない人がたくさんいるんですよ、習得するのに時間がかかる人はどうやって、最低限度の学力をつけさせるかというのは違うと思うんですね。試験の点数だけじゃないんです。例えばわたしが知っている限りでは九九が読めん子がいて、ずっと引きずっているんですよ、社会人になっても。それは覚えるときにきちんと教えてあげなさいっていうのが今の教育に若干欠けているのではないかと。皆はレベルアップして結構なんですけど、そこから落ちこぼれると、そりゃ学校行きたくないですよ。どこかでとやかく言われる、馬鹿にされる、そしたら行きたくない、そういった科目が多くなればなるほど学校から遠ざかっちゃう。昨日の友は今日の敵ですよ、調子のいいときは調子いいけど、都合のいいときと悪いときの使い分けができない、そのことを私は思いますが、全てのことを相手方に話してしまうのはとんでもない話ですよ。

いじめ・不登校でいちばん大切なのは、日頃の家庭の中で、どう親が子どもに関心を持っているかだと思います。子どものことで親が感じ取れなかったら、気がついたときにはもう遅いです。どういうことかという、電話がかかってきたときに親の前で正々堂々と話ができ、こそこそやっている話がいちばんいかんです。それがいいことなのか悪いことなのか、いじめの電話もかかってきます。聞かれないので、子どもは絶対その場から離れるんですよ。それをいちばん最初に親が見つけて、親が見つけたら学校の先生に相談するというのが、早期発見ではないかなと思います。学校だけでなく、一般社会人でもこういうことがあります。早め早めに人生経験が豊富な方がそのことに気付いてあげて、こういうふうだとかああやってやるんだぞと言って、市の職員でもそうです。学校でも同じだし、児童生徒も一般社会人1年生、2年生でも同じ話だと思っております。

教育関係の話でありますので、学校の22～3歳の先生が、指導方針が間違っていると行って35～40歳の親に呼びつけられてしゃべられたら個人的にたまったもんじゃないですよ。そういうことをどうやって解決してあげられるか。自分の主義主張だけで相手が悪いと決めつけて学校にモンスターペアレントじゃないけどみえたときに、22～3歳の学校の先生がどのようにして人生経験が豊富な方々に頼れるか。教える側も教えられる側もお互いの心の気持ちを持ちながらしないと全てが引きつってしまうと思います。皆が仲良くいけば、一人一人の個人の尊重ができるし、命は大切だし、生活も大切です。そういうことを思いながら、教育が原点、永遠のテーマですのでお話をさせていただきました。

自分の経験がこの中にいちばん入っております。そんな経験を生かしながら、子どもが健やかに育つような、生きる力を育てていただけるよう皆で努力したいと思います。これが私の自由意見の一端であります。

◎市長

事務局からその他連絡事項がありましたらお願いします。

●庶務課長

今回の開催日程は未定でございますが、内容について精査させていただきます。またご連絡させていただきます。

◎市長

分かりました。今日説明がなかった全国学力テストの国語と算数、理科について、平均点をあげられるということで、全国で愛知県はどうだったか、稲沢市はどうだったかという話がすぐ出てきますが、平均点くらいで十分だろうと

いうのもあるのでそれなりでいいんですけども。こういう結果を出されると、どこかの知事じゃないですけど、それぞれでいちばんいいのを出したいという気持ちになってきますが、教育はそういうものじゃないと私は思っております。人柄がよくないと、成績がよくてもいかななものかなと思います。何でもいいので芸術でも文化でもスポーツでも、自分でやりたいと思うことが一つであれば、それはそれで人として生きていく力になると思います。それで有名になる人もそうでない人もいますし、これはやむを得ない世界なので。10人いたら1番から10番までつきますし、10種目あって皆1番ならいいじゃないですか。個性というか、何か一つでもいいところを見つけてあげることが教育に必要なのかなと思います。笑うことが得意だって人は、私は人柄としてそれでいいと思います。1つの中で成績がいい悪いというのはいかなものかと思えます。教育は日本を支える柱です。個々の問題をきちんとしないと日本は駄目になってしまう。課題はたくさんございますが、また皆様方からお力をいただきながら、取りまとめがこのようになってしまいましたが、これをもちまして第1回稲沢市総合教育会議を終わります。お疲れ様でございました。

－ 閉 会 －